



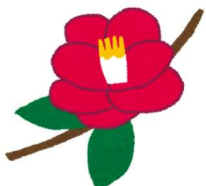
# ことば



1月号

## 2025年へび年！今年もどうぞよろしくお願ひします！

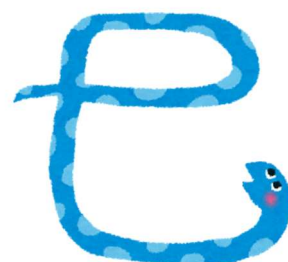
3学期は、1月10日（金）から、ことばの教室が始まっています。久しぶりでしたが、「あけましておめでとうございます！」と、どの子も年始の挨拶をして、ことばの教室に入ってくれました。クリスマスにサンタさんからもらったクリスマスプレゼントのこと、初詣に出かけたこと、お出かけをしたこと、お年玉をもらったけど、大事にとっておいてあることなど、たくさん話をしてくれました。冬休みの楽しい経験が、3学期のパワーとなり、いろいろな学習活動に取り組むことができると思います。1月の通級では、ぼうずめくりやかるたあそび、羽子板など、お正月遊びにも親しめたらと思っています。



在籍校の担任の先生がたには、2学期終わり、3学期始めのお忙しい中、懇談会の時間をとっていただき、ありがとうございました。2学期の学校での学習や生活、友だち関係などの様子を聞かせてもらいました。友だちと会話を楽しめるようになったこと、苦手なことにも粘り強く取り組んでいること、ことばの教室に行くことを楽しみにしていること、次第に発音が明瞭になり聞き取りやすくなっていることなど、いろいろな話を聞かせていただくことができました。通級に行くにあたり、在籍校の担任の先生に励ましていただいたり、ことばの成長に気づいてくださったりしていることが、懇談を通して実感させていただくことができました。

通級担当からは、ことばの教室で頑張っていることや次の学年に向けて、取り組んでいきたいことなど、お伝えすることができました。課題となっているところは、参考にさせてもらい、「ことばの教室」の学習でも取りいれていきたいと思っています。

今年は、へび年。脱皮して大きくなる「へび」のように、少しずつ「できる」を積み上げ、成長をしていってほしいと思っています。「ことばの教室」でも、3学期がんばりたいことを話しています。それぞれに、前の自分よりよくなろうと、めあてをもってスタートできているようです。短い3学期です。週1時間の「ことばの教室」での活動時間を、なお一層大切に、子どもたちと頑張っていきたいと思っています。



参考文献:『子育てハッピーアドバイス 大好き!

が伝わるほめ方・しかり方』

スクールカウンセラー・医者 名橋 大二(著)

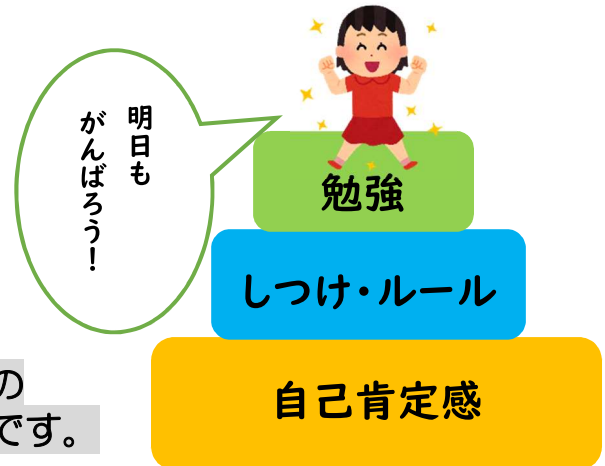
## 「子どもが幸せに育つうえで大切なこと」

子どもが幸せに育つうえで、一番大切なこととして、

「自己肯定感」だと言われています。自己肯定感とは、分かりやすくいうと、「自分は大切な人間だ」「自分は生きている価値がある」「自分は必要な人間だ」という気持ちを言います。そんな「自己肯定感」をどうやって育てていくか、わかりやすく書いた本が、「ことばの教室」に置いてあるので紹介します。

「自分なんか生きている価値がない」としか思っていない子が、どうして自分の人生を主体的に前向きに生きていることができるでしょう。社会や人から必要とされていると思えない子どもがどうして、意欲をもって勉強に取り組んだり、社会のルールを積極的に守ったりできるでしょう。

すべての土台は、自己肯定感、存在への自信です。



自己肯定感を育むポイントは、「喜びも悲しみも共感してくれる」「失敗しても受け入れてくれる人がいる」という「いいところも悪いところもひっくるめて受け入れられ、愛されている」という実感になります。失敗して落ち込んで家に帰ってきた。ところが家では、みんな自分の帰りを待ってくれ、変わらず自分に接してくれている。そう思って、初めて気持ちが癒され、また明日も頑張ろうと思えるのです。

## 自信には、じつは2段階ある!

第1段階は、「存在への自信」です。自分はここにいていいんだ。ありのまま、存在価値があるんだという「自己肯定感」です。親や周囲から自分の存在を喜んでいることで育まれる気持ちです。第2段階は、「能力への自信」です。これは、勉強ができる、スポーツができる、お手伝いができる、という自分の能力への自信です。これは、周囲の人から認められ、ほめられることで育まれます。能力への自信は、努力によってつけることができる反面、いろんな状況で失うことがあります。勉強で失敗したり、スポーツで負けたりすることです。

能力への自信

存在への自信

(自己肯定感)

でも、そこで「なにくそ」と思って、また立ち直ってがんばることができるか、あきらめてしまうかは、「存在への自信、すなわち自己肯定感」によるのです。自己肯定感の高い子は「自分のために叱ってくれたんだ」「なにくそ、がんばるぞ」と1つのことで失敗しても、それだけで、自分の価値が全てなくなったとは思わず、ここでダメでも、別の時には何とかなるかもしれないと思えるそうです。

どの子ども、まるごと、あるがままを受け止めてもらう環境が、

エネルギーになるんですね!!